

令和2年度 第2回
松戸市総合教育会議会議録

令和3年2月5日

松戸市総合政策部政策推進課

令和 2 年度 第 2 回 松戸市総合教育会議
次 第

日時：令和 3 年 2 月 5 日（金）

午前 1 0 時から

場所：教育委員会 5 階会議室

1 開会

2 議事

議題 1 松戸市教育大綱の見直し（案）について

議題 2 音楽を通じて松戸の魅力を高めるイベントについて

3 その他

過去の総合教育会議の議題に係る実績一覧について

4 閉会

◎開 会

○上野総合政策部審議監 それでは、令和2年度第2回松戸市総合教育会議を開催させていただきたいと思っております。総合政策部の上野と申します。よろしくお願いいたします。

なお、本日、市場委員におかれましては所用のため欠席となっておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、着座で失礼いたします。

まず、開会前にお手元の資料の確認をさせていただきたいと思っております。

まず次第、それから資料1といたしまして「松戸市教育大綱 新旧対照表」、資料2といたしまして「音楽のまち 松戸」、資料3といたしまして「過去の総合教育会議の議題に係る実績一覧」、参考資料として今日、当日配付ですけれども、現行の松戸市教育大綱をお配りさせていただきました。不足等ございましたら、よろしくお願いいたします。

それでは、進めさせていただきたいと思っております。

なお、議事録作成の関係から、会議の進行に当たりましては、まずお名前をおっしゃっていただいてからご発言をいただければと思っておりますので、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、これより本郷谷市長に議事の進行をお願いしたいと思います。

市長、よろしくお願いいたします。

○本郷谷市長 まず、傍聴人につきましてご報告いたします。

本日の会議には3人の方から傍聴したい旨の申出があります。松戸市総合教育会議傍聴要領に基づき、これをお認めしたいと思います。

今回の傍聴に関しましては、新型コロナウイルス感染症の対策として、傍聴の方々用に別室に映像を映し、これを視聴していただくこととしております。傍聴の方々には既に別室に入場されております。

なお、これ以降、傍聴の申出がある場合は、事務局への受付をもって別室への入室許可に代えることといたします。

それでは、これより令和2年度第2回松戸市総合教育会議を開催いたします。

今回の会議の議事録署名人につきましては、武田委員、伊藤委員の2名にお願いしたいと思います。

それでは、お手元にお配りしております次第に沿って議事を進めたいと思っております。

◎議題1 松戸市教育大綱の見直し（案）について

まず第1に、議題1「松戸市教育大綱の見直し（案）について」を議題といたします。

それでは、議事に入る前に事務局より説明をお願いいたします。

○大竹政策推進課長 政策推進課の大竹でございます。

それでは、松戸市教育大綱の見直し（案）についてご説明いたします。

初めに、まず、本日お配りした別冊の参考資料としまして配付しておりますのが現行の

教育大綱でございます。平成27年度に策定し、今年度、令和2年度までのおおむね5年
間を期間としております。

現行の教育大綱の見直しにつきましては、資料の1ページをご覧いただきたいと存じま
す。A4の横向きになってございます。教育大綱の見直しにつきましては、昨年度の第2
回及び今年度の第1回の総合教育会議におきまして協議したところでございますが、教育
大綱の見直しに関する教育長及び教育委員の皆様との勉強会も今年度、別途実施させてい
ただき、これまでのご意見等や策定時の趣旨を総合的に踏まえて事務局で最終案を策定い
たしました。この表は、それを1ページから3ページまで新旧対照表としてまとめたもの
でございます。

まず、1ページの改定案では、表紙の部分と教育大綱の位置づけの部分につきまして、
黄色のマーカーの部分について変更しております。

次に、2ページをお願いいたします。2ページの改定案では、教育大綱の対象期間及び
基本理念の、まずタイトルにつきまして、黄色のマーカー部分について変更しております。
また、その下の中段の基本理念の説明の改定案につきましては、欄外の下段に記載してお
ります見直しに当たっての考え方と、社会的背景に基づいて内容を一部変更しております。

読み上げさせていただきます。まず、見直しに当たっての考え方は「すべての市民が主
役となり、生涯にわたって学びを実現する。普遍的な生涯学習の意義をシンプルに、わか
りやすく伝える。」でございます。社会的背景につきましては「昨今の急激な環境変化に
対応・適応し、課題解決するために必要と思われる要素（ひとりひとりの自主性・主体性
の重要性、環境や社会の持続可能性）を盛り込んだ。」ものでございます。また、この表
の赤文字につきましては新規追加、緑文字につきましては表現の変更とさせていただいて
おります。

続きまして、3ページをお願いいたします。こちらはA3になってございます。こちら
は、今申し上げました基本理念を支える4つの柱でございます。先ほどご説明しました基
本理念の改定案と同様に、見直しに当たっての考え方と社会的背景に基づいて内容を一部
変更しております。改定案では、各柱のタイトルはサブタイトルを削除してメインタイ
トルのみに変更しております。これは、現行のタイトルとサブタイトルの内容をメインタイ
トルと柱の詳細部分へ分けまして、分かりやすくしたものでございます。また、各柱の詳
細部分につきましても、一部内容の変更をするとともに、分かりやすくするため箇条書き
に変更しております。改定案では、黒文字が現行のメインタイトル、青太文字が現行のサ
ブタイトル、赤文字が新規追加、緑文字が表現の変更、アンダーラインが表記位置の変更
としております。

最後になりますが、全体的に大本のところは変更しておりませんが、繰り返しにはなり
ますが、先にご説明いたしました見直しに当たっての考え方や社会的背景、そして、教育
大綱の趣旨にもございますとおり、教育・子育て・文化を軸とした将来にわたって活力あ

る地域社会の維持の視点などに基づいて、改定の最終案を策定いたしましたものでございます。

政策推進課からは以上でございます。よろしくお願いいたします。

○本郷谷市長 資料の説明は以上のとおりです。意見交換前に、ここまでの説明について担当への質問があれば、お願いいたします。その後でも、もし何かあれば。いいですかね。今の説明の内容を踏まえて、ご意見と、質問があれば、一緒に結構だと思いますけれども、議論したいと思いますので、よろしくお願いいたします。意見があれば、順番に。もし何かあれば、どうぞ。伊藤さん。

○伊藤委員 今ご説明あったように、従来からこの改定について議論をして、私自身も基本的な枠組みとか考え方は現在でも有効だと思うし、理念として今後、さらに続けてもいいのではないかと考えていますので、基本的には賛成です。ただ、ちょっと細かいところで幾つかコメントさせていただきたいんですが、表紙の「松戸の現在」の「現在」がなくなっただけですけども、私自身は松戸の未来ということで、すっきりしていいのかなという感じはするんですが、あえて「現在」を残したほうがいいのではないかとか、そういったような議論は事務局の中ではなかったのかどうかというのをちょっと確認したいということです。

それから、もう一つの、2ページ目に当たる基本理念の説明で、ちょっと気になる点がありまして、現行の表現を若干組み直したり新しい言葉を入れたりしていて、基本的な考え方は変わっていないと思うんですが、新しい案では、市民と地域社会、学校、行政のそれぞれが互いに助け合っているというの、これはもう前から言っているし、今後も当然そうなんですけれども、その前に「自立し」という言葉が入っています。「自立し」というのは前からあるので、言葉自体としてはいいんですが、その場所が、学校や行政も自立してというふうに進め、これはどういう意味なのかなという感じがします。そこで、この「自立し」というのは、場所はここではなくて、冒頭の市民が自立を目指して生涯を通じ学ぶ喜びを感じられるとか、むしろそのほうがいいのではないのかなと思います。つまり、その主語が4つあるわけですね、市民、地域社会、学校、行政、それぞれが基本的には互いに助け合って、将来に向かって共に学び合って、切磋琢磨してお互い盛り立てていくと、協力していくというのが本来だと思いますので、自立というのはここに何かあまりなじまないのかなという感じがしています。

それから、「孤立することなく」というのが、ちょっとこれも若干くどい表現、ここにあって入る必要があるのかなという感じがしています。

あと、細かい4つの柱については、また後ほどちょっとお話ししたいと思います。

○本郷谷市長 「現在」という話と「自立」ということ、これについて。

○大竹政策推進課長 政策推進課でございます。まず、「現在」ということを残すか、取るかという、事務局としてもどう考えられたかというところでございますが、委員さんか

らのご意見等を踏まえまして、この大綱自体が複数年間というのもございまして、当然、今の取組、毎年、毎年取り組んでいく、それが未来へとつながるという考え方もできるという判断をさせていただきまして、今の積み重ね、ただし、例えば、結果ではないですが、それを求めるのは未来につながるように、そういう意味で未来という、「現在」というのを取らせていただきました。

続きまして、「自立し」の位置ですね。自立とか主体性が大事だということを踏まえまして、今までも入っていたんですが、ちょっと、意味合いとしましては、今、委員さんがおっしゃられました、やっぱり全ての市民がというところがございますので、その辺、位置等は考えることはできると思います。

あと、「孤立することなく」でございますが、今、この2ページにちょっとキーワード的に四角でくくっている中の、例えば上のほうのSDGsですとか持続性の観点ですね、誰も取り残さないとか、そういうことが言われております。それを今の社会的背景ということで、重要なキーワード的ではないですが、入れさせていただいたというものでございます。以上でございます。

○本郷谷市長 いいですか。

○伊藤委員 では、ちょっと今の点で、ただ、この「孤立することなく」の主語が、この4つの主体なんですよ。ですから、行政が孤立することなくというふうにも読めるわけです。ほかの言葉は、互いに助け合う、将来にわたって共に学び合って互いを育めるような環境をつくるというのは、この4つの主体が協力してやっていくということで、非常にすっきりするんですけども、その自立するというのもそもそもおかしいし、それから、孤立することなくというのは、4つの主体がそれぞれ孤立しないでというふうにも読めてしまうので、何かちょっと言葉がここに入れるのはどうかなとは思うんですけども。多数意見に従います。

○本郷谷市長 ちょっと、回答がある。

○大竹政策推進課長 「自立し」と一緒に、「孤立することなく」の位置ということでございますので、こちらについても趣旨としては、やっぱり市民がというところが分かるようには、ちょっとその辺は場所については入るかなと、できるかなとは思っております。以上でございます。

○山田委員 今の伊藤さんからのご指摘も本当にご意見のとおりだと思うんですが、私も市民の一人としてここにいますので、そう感じるだろう人がいるということを私は思いますので、あえてちょっと根本的なところからやっぱり申し上げたいんです。私の意見です。

これは前回、大綱を作ることが法律で決まりましたから、皆で一生懸命、本郷谷市長の下で作らせていただいた。ここに紆余曲折があったことも確かです。そのときのスタートの議論として、教育のための大綱なのか、どういうまちにしていこうという中に教育をどう位置づけるかという、そのまちづくりの中の教育という大綱なのかというところに少し

違和感があったところからスタートし、いろいろな意見を盛り込んでここまで来ました。はっきり言って、今回も微修正の域なので、続けているというふうに私は感じます。こういったものというのは、先ほどの主語が何かといったことも含めて、すっとシンプルに作らないとやっぱりできないんです。みんなの意見を入れていくとそうになっていくんですよ。だから、どこどこをどうつなげるかというようなことがだんだん複雑になってきてしまっている。

これは、改定の努力をしていくこと自体は素晴らしいことなんだけれども、もう一つやっぱりもう一回、この教育大綱がどういう位置づけなのかというところから考えると、この教育大綱というのは、教育が閉鎖的になっていますよという批判を受けて、日本全国でそういうような問題があるということで、教育の中に、市民の代表である自治体の長は、そこに意見を言える場を作らないと、やっぱりいかんだろうということで、市長が入ったこの総合教育会議で教育大綱を作ることで、教育委員会に任されている事務についてみんなで作っていく、その形を作るためにここはできたわけです。だから、教育大綱の中身というのは、松戸市はどちらかというところから教育の環境をみんなですべてどうやっていくかということに中心を置いた教育大綱になったけれども、これはよその市はどのような教育をしていきたいと思いますという教育の本質についてのスローガンであったり、目標であったりといったものを作ることが多い。その多いか、うちらがどうか、これも関係ないにしても、そういう意味で言うと、せっかく市長がここの場に、教育委員会に、大きな目標を定める教育大綱って作るのであれば、船乗りの北極星のような、航海をするときに目標にすべきものとして振り返るものであればいいのであって、あんまり細かなことを書き過ぎて、細かなことがつながっているのかどうかに引きずられるようなものであると、私は分かりにくくなると思うんです。

そういった意味で言うと、今ここで見直しの機運というか、頃合いが来ているからやっていただいています、コロナのこの時期に十分に意見の集約というものを市民からいただくこともなかなかできない中で、もう少し私は練っていったいいんじゃないかなというのが私の結論であるし、市長の思いは何なのかを頂いて、もう一回そこにシンプルな言葉から作り直していくという作業を1年ぐらいいかけてやっていいんじゃないかなというふうに思います。

これは、ほかの例ですけれども、例えば川口市は「一人ひとりが輝く、しなやかさとたくましさをもたせた人材を育てる」という、これは教育の、どういう人を育てるかということを行っていますし、横浜市は「未来を創る”横浜の子ども”の成長にあたって」ということで、思いやりとグローバルと自立という3つの柱を持っています。だから、これはどういった人をつくっていくかということに焦点が当たっている。

今回私たちが大事に5年間育ててきて、今ここでもう一回産み落とそうとしているものというのは、みんなで育てようという共育、共に育つ、育てるということに柱にしている

ということ自体はいいんだけど、やっぱり環境づくりなんですよね、方法論なんですよ、これは、と私は感じるんです。だから、そこはどういう教育をしてほしいという中に、やっぱり公教育ですから、いろんな広い範囲の人を育てていくので、一概には言えないけれども、こういうことであろうよ、こういう市民に大人も育てていこうよ、こういう子どもたちを育てていこうよという、そこの思いが詰まったもの、その方向性を指し示すものであったほうが私はいいと思う。というのが意見書で出しました。だから、それがどこにどう反映したのかちょっと分かりませんが、念のために申し上げておくというのが一つ。

それから、「みんなで育てる みんなが育つ 松戸の未来」、これを一本にしました、シンプルにしました。結局、この標語から何が映像として残りますかといったときに、「みんなで育てる みんなが育つ 松戸の未来」ですよね。松戸のまちだと私はこれ、感じるんです。そうじゃないというご意見もあるかもしれないけれども、これも、だからスタートラインから今、積み重ねてきたものの言葉を足したり引いたりした結果がここにあるけれども、もう一回見直していいんじゃないかというのはあります。

勉強会のときには、みんなで育てる、みんなが育つだけでもいいんじゃないかとか、順番を変えたらどうかとか、いろいろな意見があって、その結果、どういうメッセージ性がそこにあるのかということをもっともめると思うんですよ。これから5年間、これ進めてしまうんだとすると、私はもう少しもんでいい。ここで、別にこのタイミングで作り上げることに、修正で作り上げることに少し懸念を覚えるというような感じが私はします。今あるものが、そんなに悪いものかといったらそうでもなくて、その修正を今するという前提で、ないものを作らないほうがいいと言っているんじゃないかと、今あるのであれば、修正するのであれば、もう少しちょっとスタンスを明らかにして作っていく、そこで私はスタンスを教育の、人づくりの、原点に見据えたほうが地域間競争力にも有効に働くと私は思います。修正案に進んできた過程については拝見をしております。みんなの意見を入れていただいたということは認識はしております。一旦、以上です。

○本郷谷市長 何か事務局の回答。

○大竹政策推進課長 政策推進課、大竹でございます。大変大きなご意見だったと思いますが、5年前にこちらの大綱を作る際にも多くご議論いただいて、作られてきております。そのときも、この教育大綱といいますのが、いわゆる教育、学校教育といいますか、教育に限らず、広くという意味で作られた経緯がございます。そちらにつきましては、やはり変わらず、同じ考えで見直しもしたところがございます。先ほどの冒頭の説明で私からさせていただきます、大本のところでございますのは、そういう趣旨を含まさせていただきます、現行、また改定案に入っております趣旨のところにもございます。やはり松戸市政として、教育の部分も当然取り組んでおりますが、松戸市政としても取り組んでございますので、教育・子育て・文化に関する、この軸といたしました。将来にわたって活力ある地域社会維持ということの位置づけは変えてございません。

ただ、みんなで育てる、みんなが育つ、子どもだけでなく、大人になってもですね、育つ、この基本理念の部分には出てきませんが、次の4つの、基本理念を支える4つの柱に行けば、高齢者も障害のある方も、市民みんながですとか、そういうふうに分かるような表現になっているかとは認識しております。一人一人がよりよくといいますか、育つことが、委員さんおっしゃられたとおり、松戸の未来にもつながるという考えがございまして、両方が両立しているというふうに事務局としては考えております。そういう考えで作られたものと思っておりますので、全部にお答えできているかはちょっと分かりませんが、以上でございます。

○山田委員 最大の努力を払ってこうやっていただいているというのはよく分かります。そういう文章というものの感じ方は、私とまたそれぞれ違いますから、それはそれでいいのかなとは思いますが、意見としては申し上げました。

では、1点だけちょっと、それでもこだわるとすれば、4つの柱の2番目は、これは4つの柱の2番目として、これ4つ並べたときに、「ようにします」というのは柱ですかね。ほかの、例えば1番目、3番目、4番目と比べても、具体性がなく、何だろう、結果論なんですよね。これを目指しますというのが柱といえるんだらうか。これは大体、前回までのサブテーマに一本化されたので、こうなったんだと思うんですが、ここは違ってもよかったのかなと思います。これも意見です。以上です。

○大竹政策推進課長 政策推進課、大竹でございます。4つの柱のほうの2番目でございます。先ほど、シンプルにという、この一つ前のご意見の中では、そのシンプルに分かりやすさは意識しまして、例えば箇条書にしたとかタイトルを見直したという対応をしております。今のご意見の2番目の、松戸で子どもを教育したいと思えるよう、これがサブタイトルかということなんです。まず、ここで表現をちょっと変えさせていただいている意図につきましては、選ばれるというのが、これが市外の方を少し意識したと考えまして、今まで松戸で育ってきた方、その方も当然、自分が今度、親になったときにお子さんたちに教育させたいじゃないですけども、そういう意味を含めて今回ちょっと見直させていただいたという意図はございます。ですので、これは柱になると事務局としては思っております。以上でございます。

○山田委員 そうだとすれば、私だったら、市民と地域の力で一人も取りこぼさない教育を行いますとかという言い方をします。結果、それが選ばれるようになるから。だから、そういうことの完成度が、私は高くないとは思いますが。意見です。お決めいただくのは、今日決まるということであれば、いいんですけども、そういう意見があったということは言い残しておきます。

○本郷谷市長 どうぞ。

○山形委員 1ページ目の「現在の」というところも、勉強会の中でもいろいろな議論がある中で、Society5.0以上に、コロナもあってVOCAの時代といわれて、もっと先を見据

えていないと、何が起こるか分からないというところで、今よりも未来というふうにシンプルになることというのは私は肯定的に捉えています。

2 ページ目のところですが、山田委員の話を聞きながら改めて、私は前回の大綱を作る時に参加していない委員なので、このできた大綱に関して、考えていく中で、これはシチズンシップの教育というか、ビジョ的なグローバルな大綱だということを今改めて、川口市の人を育てると、単焦点レンズ的にぎゅっと見るのではなくて、松戸の大綱というのは広角レンズで広く、大きく社会の情勢を捉えた大綱なんだなということを改めて感じることができました。貴重な意見をありがとうございます。そして、それでいいのかという議論ももう一度したほうがいいのかもしいかなというの、山田委員のお話を聞きながら感じていました。

今回に関しては、私はこのいただいた中で、私自身も子育てと教育が離れ過ぎている感じが、委員にさせていただいて学ぶ中で、豊かに主体的に遊びの中から学んでいた子どもたちが、教育になった瞬間、すごく伸びていく子もいれば、すごくしんどくなる子もいる中で、そこが親和性豊かに広がっていくことや、産後のお母様やお父様とかももっと豊かに学べるものがあって、学びがもっと広がっていくこと、大人こそ学ばなければいけないというところや、私自身も教育委員になって、武田委員のおかげで文化、芸術やアートにも視野を広げることができたりしたので、広い部分で考えるのが、私自身は、触れていく回数が多くなること自体が学びになるので、グローバルな大綱ということも完成させながら、並行して本当にそれでいいかという議論をまた重ねていくことが必要なのかと感じました。

今回の文言について、勉強会の中でもいろいろな意見と、メールのほうでも意見を投げさせていただいた中で、この多世代というところも、全ての市民という包括的な言葉が使われているところはいいなと思いましたし、先ほど伊藤委員が自立のお話、私もちょっとこの読み方が、言葉の並びで自立が変な形に捉えられるかもしれないという違和感は少し覚えたんですが、自立についての捉え方が、本当に自分一人で立っていく、ではなく、正しい依存先を見つけること、正しいつながり先を見つけて、自主的にして自己決定をしていくことがウェルビーイングにつながり、幸福につながり、自分の人生を生きていくことになるので、そのバランス、ニュアンスというのは大切にしたいのかなと思います。

本当に2030年、何が起こるか分からないですし、気象問題に関しては日本は、各地で起きてはいるけれども、海外ほど生活が本当に困難になるほどすごいことというのを、経験した人もいれば、そうでないというので、まだ覚悟感というか切迫感を感じないところがあるんですけども、SDGsを見れば見るほど、もっと緊迫感を持って持続可能性や、本当に取り残さないことはどうしたらいいんだろうと突き詰めていかなきゃいけないと思います。その中で、本当に誰一人取り残すことなくという、先ほど山田委員が柱の中

にそのぐらいの文言が入ったほうが良いというお話がありましたけれども、その中で孤独死も含め、孤立することなくというキーワードは基本理念に入れてほしいなというところは、私の中にはありましたし、物を使う責任や、ごみを捨てることに関しても、将来にわたってということや、持続可能な社会と書いてもいいのかもしれませんが。広い大綱の基本理念としては、そのような点があってもいいのかなと思いました。

柱のほうに関しまして、細かいところを言ってもいいでしょうか。では、まとめて行かせていただきますと、ICTのところはもっと広がっていかなくちゃいけないところと、自己肯定感に関しては国民性もあると思います。日本財団18歳意識調査で、9か国の18歳の年齢の青年たちにアンケートを取ったら、圧倒的に日本は低い状況にありましたが、それを高いからいい、低いからいいという、その単発的な数値だけでも捉えず、もっと俯瞰した部分で、生まれ持った子どもの才能を伸ばしていくような感覚も並行しながら、結果育まれたというようなものになってほしいなと思っています。

2番目の柱について、私ここの選ばれるというのはちょっと突っ込ませていただいたところだったんですけれども、それこそこの下の思えるようにしますというのthinkとかwantになって、こうしたいというようなことなんですけれども、環境をつくり出す、みたいな断言のほうが良いような気がしました。市民みんなで子どもの成長を支え、質の高い教育が受けられるという環境をつくり出すというぐらいのほうが良いのかなと思いました。子どもの成長に応じた切れ目のないということに関しましても、妊娠、出産、乳幼児期、保育園、学校とある中で、妊娠で、今どこの自治体もそうなんです、出産で途切れるんですね。助産師が妊娠期から出産も継続してと、やっている自治体も少しずつ増えてはきているんですけれども、まだまだそこは途切れるところ。また、乳児になってから園に入るところも一旦途切れるところ、園に入ってから学校に入っても途切れるところと、実は途切れ目が結構あるところを、もっともつつながるようなことをするために、親支援、親御さんに対して教えてあげるのではなくて、対等に一緒に学び合って、今の現実を教えてください、では私たちに何ができるんでしょうかというような対等な平等な関係性がある学びをつくっていかなくてはならないなと思いました。

3番の主体的にというのは本当に大切に、ウェルビーイング、その幸福度の決定に関してもかなり影響されていきます。こちらがやってあげるというスタンスは絶対にあってはならないもので、一緒にやっていきましょうというスタンスを作っていただきたいなと思っています。

この市民が身につけた知識や経験を生かして地域の方に自らの力で解決していくような支援というところなんです、例えば不登校のお困りの方が自主的に活動をして当事者が頑張るといのがかなりあります。当事者だけで頑張っていて、うまくいくケースもあれば、本当に燃え尽きていくケースもあるので、そこをしっかりとサポートするような言葉もあってもいいのかなと思いました。

4番に関しまして、以前からふるさと意識というのは少しというお話があったのが、表現が修正されていて、今の時代に合ったようなものにあるのかなと思います。ただ、この継承というところに関して、簡単な言葉ではないというのを先日の武田さんのお話から感じたので、何かここもさらっとは書いてはあるんですが、もっと大切にしていってほしいのかなと思いました。全体に関しての意見でした。

○本郷谷市長 踏まえて、何かありますか。

○大竹政策推進課長 政策推進課、大竹でございます。ちょっと全体的なお答えになってしまうかもしれませんが、今、ご意見の中の、例えば自立ですとかその辺のお話についても、いきなり自立ではないというか、その考えは当然私どもも持っておりまして、まず育てるといいますか、当然初めから皆が自立してできる方もいるかもしれませんが、そうでない方もいると思いますので、その考えは持っておりますので、支えていくというそういう考えは当然持っております。

あとは、途中漏れていたら申し訳ありません。文化の継承というのは大きいことではございますが、まず知ることからということで、本当に個別具体的にレベルになってしまったら申し訳ないですけれども、例えば博物館とかございます。そこに様々な資料とかあるんですが、まず知るところから、そういうところから始める、そういう基本的な基礎に帰って、それで、こういう市だったんだ、今の成り立ちはこうだったんだ、それで誇りと愛着を持つという、そういう意味を含めましてこういう表現にさせていただいたというところがございます。

すみません、ちょっと漏れているところが多いかもしれませんが、よろしく願いします。

○山形委員 ありがとうございます。

○本郷谷市長 よろしいですか。どうぞ。

○武田委員 武田です。一番最初の大綱の背景と趣旨というところからなんですけど、何度も市長もおっしゃっているように、松戸は人口減少のところではないんですよ。少子高齢化は確かなんですけれども、少子高齢化、なおかつ人口が増えていくという当市というのは、ちょっと異質な形の中で市政を進めていかなきゃいけないという大変な時期に差しかかっていると思います。ただ、地域によっては子どもは一時的には増えているかもしれないけれども、決して必ずしも少子化に逆行しているような状況ではないという捉え方の中で、今回書いてくださった言葉の中で一番有り難いなと思っていたのが、子どもの成長に応じた切れ目のない教育です。話題にも上がっていた2番の中なんですけれども、これが、山田委員も今おっしゃっていたように、切れ目のないというところで、大綱の中に事細かなことを入れる必要性はないと思うんです。誰もが読んで簡単に安心できるようなフレーズというのは大事だなと思っていて、この書換えに対しては本当にいいお言葉を使ってくれたなと感じました。その辺が背景趣旨とリンクするのかなというところで、も

うちちょっと考えていただきたいという思いがありました。

何が大変なんだろうというふうに考えたときに、やはり少子高齢化で高齢者が相当に増えていく中での生涯教育の大切さは増していくと思います。教育委員会というのはやはり学校主体というところが確かにあって、そうすると、確かな大人になっていただくための方策って何だろうということが一番大事なところだと思うんですが、現在の教育大綱は私も責任がある、一緒に作った者の一人なんですけれども、成果が還元されるようなことを望むような表記がかなり目立ったんですね。それがすごく、何というか、期待感なのかもしれないけれども、市民にとっては負担に感じるような表記ではないかなと感じられて、地域に還元であるとか役立てるとかと、そういう言葉がやはり目立った。それらをいろいろな形で精査してくだっただので、ご努力を感じる言葉の表現が随所に見られるなどと思って、有り難く思いました。

実際この大綱を、先ほど山田委員が意見をおっしゃってくださったのを聞いていて、疑問なく精査することを考えていた自分に対して、この令和に入って、このコロナというものを経験して、ICTに対する考え方も大きく変わる中で、やはりもう一回きちんと考えるべき時期なのかもしれないと思いました。子どもだけじゃないです。高齢の方も非常に上手にICTを使いこなしている方が今増えてきているので、もう少し先進的な市としてやれることというのが提示できるとよいように感じます。「みんなで育てる、みんなが育つ」というのは、結局、全世代的な共感をもって育まれていくということだと思うので、私はソフトですごくすてきな言葉だなと思って見ているんですけれども、やっぱり未来を見据えるために「現在」という言葉を削ったのは、イメージが伝わりやすくてよかったと思っています。それが生涯に通じてというところを感じられるような表記をもう少し精査していくべきなのかなというところで、やはり山田委員の意見を聞いていの中で、ちょっと疑問が逆に浮かんでできてしまって、言おうと思っていたことがちょっと違ったのかなというふうに今、若干自分の気持ちが揺らいだところは実際あります。

○武田委員 すみません、ちょっと軸が弱いのかな、ごめんなさい。文化に対して、今、山形委員もおっしゃってくださったのは非常に有り難くて、ふるさと意識というのはちょっと難しいよということは実際、自分も自ら言ったことは記憶にあります。ただ、ゼロでいいかと言われると、願わくば戻ってきて松戸に還元したいという気持ちをどこかに踏まえつつ、育っていくこと、羽ばたいていくことを大いに歓迎いたしますという姿勢を表明するのであれば、あえてその見返りというか、そういうことを期待しなくても、当然の結果として自然発生的にそういったものが戻ってくるというのは、一つの文化なんだと思うんですよね。

宇宙飛行士の、山崎さんなんかを通じて、やはり宇宙に対しての興味が高い子どもたちが育ったり、そういった授業がたくさん持てたり、あるいはプラネタリウムで講義していただくと、たくさんのお誘いがあったりというのが現実的な例かとは思いますが、

そういったすごく自然発生的なものを促すよう、どういう言葉を用いて伝えたら市民の方が安心して、これいいねと言ってくくださるかを行政が教育の中に反映しているという姿が伝えることが大切だと思います。やっぱり難しい言葉を幾ら並べても、市民の方がさらっと読んだときに、いいねと素直に思っただけの言葉を選ぶことのほうが非常に大事なんじゃないかなと思うし、それは親でもあり、高齢者でもあり、学生でもあるし、先生方でもあるんじゃないかというふうに思っています。

すみません、抽象的な意見になりましたけれども、そのように思っております。

○本郷谷市長 事務局、ありますか。

○大竹政策推進課長 政策推進課、大竹です。教育大綱に、委員さんからもありましたとおり、事細かく具体的に書くよりは、それは少し大きな視点からという、そういう考えで作られたと思っておりますし、今回の見直しもその視点で改定を策定させていただきました。

今、委員さんおっしゃられた、例えば子どもの成長に応じた切れ目のない教育とかというのも、この具体策は実際、松戸市で子育て・教育・文化という取り組みでやっております。学校に入る前から、学校を出た後、例えば学校の時間を終わった放課後の時間、具体の策は実際やっております。ただ、ここに具体的に盛り込むかという、分かりやすさからすれば、このように考えさせていただいたというところがございます。

また、全体的な趣旨というところでございますが、この人口減少、少子高齢化、これは5年前もそうですし、今も日本全体では変わっていないというか、進んでいる状況ではございます。これに対して、ちょっと教育大綱とはまた当然、全体の市政、松戸市政の中で常にここをどうしていくかと取り組んでいるところでございまして、松戸もそれに対して取り組んできた結果、減らないで増えてきているという、これはもう結果が出てきている成果だと思っております。ですので、そこの背景、趣旨はやはり変わらないのかなど。その中で教育大綱として、目指すところというのは大本は変わっていないという、そういうところでございますが、あとは表現というところで、どこまで伝えられるか、伝わる方に対しての受け止め方でないですけれども、そこまで考え、事務局的にちょっと考えさせていただいて、改定案を作らせていただいたというところがございます。

ちょっとお答えになっていないですが、以上でございます。

○武田委員 武田です。私自身の申し上げているほうも抽象的なことが多かったので、お答えいただくほうも難しかったのかなということは感じますが、ただ1点、背景と趣旨というのは、これは市で作っているもの話なので、捉え方を間違えるとちょっと沿うものから離れてしまう危険性があるのではないのでしょうか。図書館の改革とか今、進んでいますよね。そういうものに、人口や構成が変化などを還元していけたらよいと思っています。松戸市もホームページを開けば、人口のカウントダウンなども出ているような状況の中で、このまま背景と趣旨が国と連動しているというものは、人口増の結果を成果としている

ならば、やはり変えた方がよいのではないかと思います。

○本郷谷市長 何かありますか。

○大竹政策推進課長 政策推進課、大竹です。この人口減少、少子高齢化の進展というのが日本全国でという、そういう趣旨でございます。それに対応するというところでございます。以上でございます。

○本郷谷市長 よろしいですか。

○武田委員 国の人口の流れ、推移とは異なる人口増加を成果とするならば、本市ならではの執え所があるのではないかと意識する必要性があると思います。

○伊藤教育長 それぞれの委員さんからの今、いろいろなお考えを聞きながら、大きく4点、お話したいと思います。

まず1つは感謝というか、実はあまり大きい記事じゃないので、それほどニュースにもあまりならない状況なんですけど、この総合教育会議の開催自体がどうも自治体によってはもう尻すぼみになっているという、そういう状況が全国的にはあります。そういう中でこうやって毎年、複数回開催していただいているということ、それで、その中でも形骸化された状況ではなくて、こうやって皆さんから活発な意見を頂きながら前へ進んでいるという、そういう状況を生んでいるということは、あまり一般の方には理解いただいていないのかなというふうに思いますので、あえて今、1つ目としてお話をしました。せっかくこうやって一般行政と教育行政のつながりが深くなりつつあるのに、そういう自治体がいまだに多いというのは本当に残念なことなんですけど、ぜひこの活性化を続けていきたいなと私も思っております。よろしくお願いします。

この案については、大枠としては賛成なんですけれども、特に賛成の理由として、やっぱりみんなでのというのが、本当にどんどん難しい社会に、このコロナ禍でますます、ただでさえいろいろな課題が多くなる、それから格差も拡大というか、下手すると固定化されるような状況の中で、やはりみんなで、「教育はみんなで」と前から申し上げているんですけれども、やっぱりみんなで作っていかなければ子どもは育たないし、市民の文化も育たないし、そういう状況を改めて確認しながら、「みんなで」ということを、「やっぱりみんなで作っていきましょう」という、そういう意識を発信してもらえたらなというふうな思いが強いので、ぜひこの大枠としては「みんなで作る みんなが育つ 松戸の未来」という方針でお願いしたいなというふうに思います。

3つ目は、先ほどから議論になっているんですが、以前のというか、現行のこの教育大綱は、私はある意味、教育委員会の制度改革の中で生まれてきて、作ることが目的の一つだったような気がします。とにかく作らなければならないので、周りの自治体を見ながらとにかく作ったというふうな思いが強いんです。今度は、なぜ5年なのか私は全然分かりませんが、それを改定しましょうということで今、議論していて、こうやって新しいものが作られているわけなんですけれども、それもまたなぜか5年なんです。これだけ変化

が激しい、下手すると教育観自体が変わってしまうくらいの大きな流れの中で、5年もまたこれで行くのかということは、私は全然何か、理にかなっているとは思っていません。むしろ、その下の2行にあるように、教育を取り巻く状況や社会情勢に大きな変化が生じた場合は、必要に応じて見直しを行うものとしますというふうな柔らかい表現ではなくて、もっと、毎年毎年見直す機会を作ってもいいくらいの流れの中に今あるのかなというふう

に思っています。

そういう意味で、今度のこの改定も一步前進していたいというふうな受け止め方を私はしたいなと思っています。いろいろ細かいところは、またご意見の中にもありましたけれども、4つ目には、その細かいところなんです、伊藤委員さんからもあったように、「自立し」という表現の位置は私も違和感があります。それ以上に、その前の市民・地域社会・学校・行政というのは4つが並列しているということがどうも、地域社会・学校・行政というのと市民というのが、質が全然違うのに4つが並んでいるので、その次につながる言葉がそれぞれ違和感を持ってしまうという、その辺の表現の仕方を変えれば、中身自体は先ほど申し上げたようにいいと思いますので、少し文章表現を変えれば、もっとすんなり市民の皆さんに受け入れられるようなものになっていくのかなというふうに思いますので、ぜひご検討をお願いしたいと思います。

以上です。別に事務局からは要りません。

○伊藤委員 すみません、ちょっとまたいいですか。

○本郷谷市長 できたら委員の中の議論、事務局とじゃなくて、今後どうしましょう、これをと、こういう議論をされたら。どうぞ。

○伊藤委員 先ほど、柱については後でと申し上げたので、つけ加えたいと思いますが、その前に、私自身はこの教育大綱の全体の構成については、教育行政も一つのまちづくりの一貫として、まちの発展がなければ教育というのも成り立たないので、やっぱりそういったつながりをいろいろ持ちながら、教育の基本的な姿勢というか、そういったものを出すべきだろうと思いますので、この今回の構成については、前回のときもそう思いましたし、今回もそれを踏襲してこういう形になるというのはいいというふうに思っております。ただ、もちろん5年たったので、いろいろ変わった状況があるので、それについてはやっぱりいろいろ取り込んでいかなきゃいけないということで、現在こういういろいろな言葉の修正とか、そういったものが行われているんだろうなというふうに思っております。

それで、柱について、やっぱり時代の変化というか状況の変化、例えばICTの発展とか、それからあとSDGsのことなんかもやっぱり当然盛り込まれているべきだと思いますので、それが今回こうやって入れていただいたということは非常によかったというふうに思っております。

それから、2番目の、子どもを松戸で教育したいというふうに思えるようにするという点について、やっぱり幼児教育というのは、非常に大事なことだと思います。現行では幼

児のときからという言葉が入っているのに、改定案には幼児という言葉が入っていないので、最後のところに、子どもの成長に応じた切れ目のない教育というところに、その中で、幼児のときから子どもの成長に応じた切れ目のない教育というふうに、当然分かっているんだけど、あえて入れたほうが、やっぱり受け止め方としてはいいのかなというのが、ちょっと私の感じとしてはあります。

それから、3番目は、高齢者と障害のある人も、市民みんなが学習や運動ができる、そういう環境をつくり出すということなんですが、その場合に、ここに主体的という言葉が入っているんですけども、高齢者や障害のある人が、なかなか主体的に運動をやるとか、そういったのはなかなか難しく、主体的というのは何か本当に自分が自分の意思で率先してやるというような意味合いがあるので、あえてここに主体的というふうに書かなくてもいいのかなという感じがしておりますので、ちょっと検討していただければと思います。

それから、今回、ご指摘あったように、ふるさと意識という言葉がなくなっております。ただ、確かにいろいろスポーツとか文化を通じて、なかなかふるさと意識というのは難しいと思いますし、やっぱりふるさとということになるとどうしても緑豊かな自然とか、そういったものをどうしても結びつけるので、ふるさと意識という言葉がなくなっても、私自身はやむを得ないのかなというふうに思っております。以上です。

○本郷谷市長 お互いに、どうしますか、議論あれば。

○山田委員 よろしいですか、山田です。今後に向けて、委員同士の何か意見があればということですので、教育長おっしゃったように、一步一步だと思えますし、今後に向けてさらに高める努力をしていくということがいいんだろうと思えます。ただ、大綱は大綱を作るための大綱じゃなくて、それからどうつながっていくとか、展開するかだと思うんですね。

今の伊藤委員のご指摘もそうなんですけれども、一個の言葉を入れると、一個どうじゃないかということになっていってしまうので、私は大綱の中にどう盛り込むかということについては、ある程度もっとシンプルにしたほうがいいと思います。そこで言ったかどうかということで、逆に、入れたらそれで何かができるわけではないというところで、どうその施策の方向性、これははっきり言えば、教育委員会の事務もあれば市長部局の事務もある、その両方にこう、投げかけるようなものでありたいということだとすれば、そういうことをしっかり意識しながら言葉を選んでいったほうがいいと思います。この中の文章に入れるのか、あるいはもっとサブの、この会議の議事録の中で、しっかり入れおいて、では、市長から指示を出しましょう、教育長、ちゃんとそれやってよねというようなことが実現されていけばいいのであって、あまりこの言葉に細かいものを置くといかがか。教育委員会の年間の施策はこの大綱のどの部分に対応していますというひもづけを去年までしていました。結局、大綱というものがそういう位置づけだというふうに活用しようとしたから。そういうものなんでしょうか。

昨日の教育委員会で、学びの松戸モデルというものを、またこれも中期的な目標と、それから事業の整理をして、そこからひもづけて毎年落としてきましょうというのがあります。だから、いろいろなものが屋上屋を重ねるようなよりは、私は、もし今後、進化していくのであれば、この教育大綱を、より網羅的で、松戸がほかの市と違ってやるのも、これも大いに特徴としていいので、みんなで参加型で作っていくんだということをどこかで表現していくか、それぞれの部局がどのようにやっていくかということに展開しやすいような、一個一個の言葉に縛られるんじゃなくて、展開しやすいような議論を重ねていていただきたいなというふうに思います。

今後に向けてということで、発言させていただきました。

○本郷谷市長 あと、何かありますか、今後これをどうしたらよいか。どうぞ。

○山形委員 山田委員がおっしゃっていたように、変化にみんなで取り組みながらで、大綱を作るのが目的にならないというのはすごく大切だと思っていて、それが目的になって、例年だと繰り返していくと、こんなに時代が変わっているのに、やっていることが変わっていないという、行政やPTAなども去年やったからこれをという流れがある中で、こういう議論を通しながら、本当のゴールは何なんだろうかとこのころを忘れないように、本当のゴールというのは、私は一人一人の幸福な人生だと思います。そのために学びがあって、教育があって、やっぱり知識があると、その選択がしなくてよくなる、子どもに手を上げなければ言うことを聞かないと思っているときに、そこには実は声をかけることは知らなかった、それは学校教育で教えてくれないことだったりしますけれども、知ること、教育があることで、幸福な選択肢ができる、そのプロセスをすごく大事にしていくところも大切なので、この大綱の議論を通して、もっと広いビジョンでいろいろなものを考えていき、松戸の教育がよくなっていけばいいなと考えました。

○本郷谷市長 時間もちょっとあって、次のテーマがありますので、大綱をどういうふうにするかだけでなくずっと議論していても、それは言葉まで含めてやったら大変な、どう言うかな、コンセンサスを得ていくって大変なことで、こうやって議論することの過程が僕も意味があって、それぞれ重要だと思うので、僕を感じとしては、あまり文言の、これを言い出したら本当に答えがない部分がありますから、基本的には骨格はこれでどうかなと。その代わり、教育長も言っていたように、何かあれば、変更の理由は、教育を取り巻く環境や社会情勢が大きく変化した場合は必要に応じてとあるけれども、前置きは要らないと思うんだけど、ただし必要に応じて見直しを行うものとするということで、このメンバーで変えていけばいい話であって、何も別のところで議決をもらう案件でもないので、今後でもまだ議論を並行して続けてやっていただいたらどうかなというふうに思います。ここをあまり言葉だけやってもしょうがないので、こうやっていろいろな意見が出ることは大切だと思います。

教育委員会の教育という言葉に、それぞれが自分たちが限定して課題とか理想を考えて

いく、どっちかといったら自分たちが限定していってしまうおそれがあるかなど。教育委員会というと何か子どもの教育と、こういう感じで、戦後できた新しい制度で、もうちょっと組織を取っ払って考えると、子どもたちが生まれてから育てて、大きく大人になって社会生活をしていく、それは勉強もしなければいけないし、いろいろな教育も必要だし、あるいはスポーツしたり遊んだりすることも必要だし、そのまちづくりも必要だし、全部が必要で、それをどうやって線を引いて限定していくのかということにしか尽きなくて、今は何を、教育委員会というと、小学校、中学校の公的な教育機関の在り方が一つと、もう一つは生涯教育ということでスポーツとか文化を教育という視点からどう捉えるか、この2つが共通した、組織的にもそうだし、そういう認識だろうというふうに思うけれども、世の中が変わってきて、やっぱり今、子どもたちは生まれてから学校へ行くまで、幼児教育も必要だし、それから保育ということも必要だし、そうすると、何も教育委員会と子ども部が別々にある必要はないので、例えば、子どもが生まれてからずっと高校を出るぐらいまでについてに対して、そういう組織にして、あるいはスポーツとか文化というのは何も子どもたちだけじゃないので、これは大人も大事だし、それから、あるいはまちづくりとかいうこと、プロスポーツをどうするかとか、施設もそれに合わせてどうするかとか、芸術もアーティストをどう松戸市で育てていくとかなると、子どもの教育とは全然離れた、また違った視点もあるし、そういう意味で行くと、いろいろな議論が、広がりがあるし、そういう議論の中で今ある教育委員会の議論をしてほしいというのが僕の気持ちであって、今の教育委員会が持っているものがどうだから、それは最後は限定した議論をしないと発散しちゃうのでいけないですけれども、常にそういう広がりを持って議論してほしいなど。

だから、必要があれば、僕を感じだと、今を感じだけれども、子ども部と教育委員会を一緒にしちゃって、その代わり、文化とかスポーツは文化庁みたいな、文化部をまた別に作っちゃって、文化スポーツとか、別に作って徹底的にやるとかいうのもあっていいと思うし、そして、教育委員会というのは子どもが生まれてから高校卒業して一定程度、社会で育っていくまで、教育というんじゃなくて、その人の、教育というのか、子どもが育っていくためには環境も必要だし、環境がしっかりしていなかったら子どもがうまく育っていかないわけだし、いろいろなそういうバックアップも含めて、あるいは保育も含めて、小さい幼児教育も含めて、やっていく形にしたほうがいいというのであれば、そっちのほうがよければ、そういう議論をしてほしいと思うし、文化とかそういうものも、ただ子どものためだとかいうのじゃなくて、生涯の教育のための文化じゃなくて、生きがいのための文化だってあるわけだし、何も教育を受けることが、教育文化だけが文化じゃない、我々の生活そのものが文化そのものにもなるわけですから、広い意味でもあるし、そういうことで、その広い意味の中で常に議論してほしいし、それをここの中に書き込んでしまうというのは大変また難しい、それだけでまた時間取ってしまうので、基本的にはこういうものをベースにして、そういった議論を広げて、あるいは意見交換できるように、そう

いう中で教育、具体的なものはまた進めていっていただきたいなど。

だから、そういう意味では、先ほど言われたように、あまり細かいことまで書き込むというよりは、大きいところ、そこはまた議論していただけるといいなど、こんなふうに思っています。そういう視点から見ると、ここであまり、この文章がどうだこうだ、言葉というのは、今あった意見は踏まえてまたちょっと検討してもらいますけれども、取りあえずここで大綱にしておいて、今日あった議論を踏まえて最終的な版として、2つ目は、僕はここに修正条項が何か、条件を入れているけれども、そうじゃなくて、ここの教育委員会で必要があれば、当然、環境が変化すればやるわけだし、必要があれば適時にやっていくというふうに、ちょっとここだけは直してほしいなと思います。

ということで、一応これはここで議論は終えたらどうかと思いますが、いいですかね。そういうことでよろしいですかね。では、そういうことで。

◎議題2 音楽を通じて松戸の魅力を高めるイベントについて

○本郷谷市長 2つ目は、議題2ということで、「音楽を通じて松戸の魅力を高めるイベントについて」を議題とします。議論に入る前に、教育委員会より説明をお願いします。

○片田生涯学習部長 生涯学習部の片田でございます。議題2の音楽を通じて松戸の魅力を高めるイベントにつきまして説明をさせていただきます。

昨年10月8日の総合教育会議では、松戸の文化度を高め、文化と教養のまちをつくるための取組につきまして、全般的な概要を説明させていただきました。この中で委員の皆様からは、松戸における文化度であるとか、あるいは松戸における文化の多様性や可能性など、様々なご意見を頂戴いたしました。

今回の会議では、前回頂戴いたしましたご意見を踏まえ、音楽をテーマに、いかに音楽に携わる方々の裾野を広げるか、そして、お住まいの方が思い立ったときに気軽に様々な音楽に触れる機会があるといった、音楽のまち松戸を目指すための取組について、資料2に基づき報告をさせていただきたいと存じます。

まず、松戸市内の音楽、特に音楽を発表する場に関する現状でございますが、市内各地域でクリスマスコンサートや戸定邸コンサート、ゆいの花公園コンサートであるとか、地域で行う様々なイベントに合わせたコンサートなど、商店会だとか町内会などの地域、あるいは市の主催によりまして多くのコンサートが行われているところでございます。また、市内小中学校の吹奏楽や合唱などの音楽活動は、毎年全国大会に出場するなど活発に行われているという状況でございます。さらに、市内には音楽家を目指す東京藝術大学学生寮の海外からの留学生であるとか、あるいはパラダイスエアに集うアーティストがおり、このような方々の活動など、本市では音楽に関しまして多くの地域でいろいろな活動が行われているという現状がございます。

一方で、市内には国内でも有数の楽団で活躍された方であるとか、あるいは多くの団体に音楽指導をされた方などもお住まいで、学生時代には演奏活動をしていただけれども、社

会人になってからは活動から遠のいてしまった、あるいは、仕事や子育てが忙しくて、楽器に触れたいけれども、なかなかその機会がないといったような市民の方も多くいらっしゃるようなところでございます。

こういったような方々が再び音楽に興じていただくということができれば、音楽に関わる市民の裾野がより一層広がることになるのではないかと考えており、例えば、地域にお住まいのトップクラスの音楽指導者として活躍されていた方が一線を退いてから、学校の部活動などお手伝いいただければ、児童生徒にとっても有意義な時間となり、このような活動が学校という場を中心に地域に根づくことで、さらに地域で眠っている、音楽を自分でもやってみたいという方々の掘り起こしにもつながるものと思われま

す。今後の学校の在り方として、学校が地域の拠点として活用されていくということを思料いたしますと、資料の中ほどの右側にもお示ししておりますように、このような学校と地域の連携による音楽活動の拠点としての活用が、学校が地域の拠点として活用される一つの方向性になっていくのではないかとこのように考えているところでございます。

そして、このように地域で活動されている方々の発表の場、あるいは市内で活躍する国内外のアーティストの発表の場、さらには市内の小中学生の発表の場といたしまして、資料の中ほどにお示ししております、市民参加を主体とした、仮称ではありますが、松戸音楽フェスティバルを開催するといったことを提案しているところでございます。

このフェスティバルは、市内各地域で催されているコンサートのほかに、市内の音楽イベントの核となる祭典として、資料の中ほどにもお示ししているように、学校の部活動を含め、市内で活動されるプロもアマも問わない音楽家の方々に参加していただくイベントとして、市内はもとより市外からも多くの方に訪れていただきまして、様々な音楽を気軽に楽しんでいただけるようなイベントに育てていきたいと考えております。

まず、その一歩といたしましては、今年の11月に森のホール21と21世紀の森と広場を会場にいたしまして、プロ、アマを問わずに市内で活動する多くの音楽家の方々、市内小中学校の部活動などを中心に演奏していただき、訪れた方々には一日をゆったりと過ごし、楽しんでいただけるような祭典として開催したいというふうに考えているところでございます。

なお、フェスティバルの開催に当たりましては、音楽協会や商工会議所、青年会議所、あるいは文化振興財団、観光協会、国際交流協会などの外部の組織の協力は必要不可欠ではございますが、庁内におきましても経済振興部、まちづくり部、学校教育部との連携は欠かせないものであり、既に協議を進めているところでございます。今後につきましては、開催に向け、予算確定前ではございますが、外部の組織にも協力について早い段階で内々をお願いをしてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上、雑駁ではございますが、音楽のまち松戸に向けた資料の説明とさせていただきます。以上でございます。

○本郷谷市長 それでは、今の内容について何か質問、質問だけじゃなくて、意見でもいいし、両方何でも。

○伊藤委員 ちょっと、では。

○本郷谷市長 どうぞ。

○伊藤委員 今回のフェスティバルには、海外から誰か、テーマによるんでしょうけれども、招聘するというような考えは、もちろんコロナがどうなるかにもよりますけれども、そういう考えがあるのかということと、屋外でやるのであれば、雨天の場合はどうするかという、その辺の今の考え方があれば、教えていただきたいんですが。

○本郷谷市長 事務局。

○片田生涯学習部長 伊藤委員から今ご質問ございました、海外からの招致ということですが、基本、特に有名、海外のアーティストをこのイベントのために呼ぶというよりも、今、松戸に滞在しておられる、例えば東京藝術大学の寮が松戸にございますので、そういうところでプロを目指している音楽家の卵であるとか、あるいはタイミングによっては、パラダイスエアにそういう音楽家の方が滞在していれば、そういう方にも出ていただくとか、そういったことは考えていきたいというふうに考えています。ただ、やはりこのイベントを盛会に催していくためには、やっぱりアマチュアだけではなかなか人が集まってこないということもございますので、可能な範囲で、松戸にゆかりのそういうプロの方も参加していただければいいなというふうに思っておりますし、行く行くこのイベントがすごく盛況になって育っていけば、そこで演奏した子ども、あるいは方がプロになって、またそこに戻って演奏していただくというようなことができれば、これはもう本当にすばらしいかなというふうに、ちょっと個人的には思っています。そういうことを目指していきたいというふうに考えているところでございます。

なお、天候の点なんですけど、基本、今回の11月につきましては森のホールと屋外でも行いますが、あんまり大雨になってしまいますと、やはり屋外はできなくなってしまうかなというふうに思っておりますが、多少の雨であれば少し、屋外のステージに屋根をつけるなど工夫して、支障のない範囲、見るに当たっても支障がないという範囲では、できるだけやるように工夫はしていきたいというふうに考えているところでございます。

○伊藤委員 そういう意味では雨天順延、翌日の日曜日にやるということではないのですかね。

○片田生涯学習部長 そうですね、スケジュール的に、会場の都合もちょっとありまして、たまたまこの11月6日に設定しているんですが、この日というのが、その前の週に森のホールで全国の中学生の音楽の大会がございまして、それを受けて11月6日に森のホールで子どもたちの受賞記念コンサートも行われるものですから、それと併せてやりたいというふうに考えているものですので、日にちとしてはこの日を限定的に、取りあえずはまず第1回目として行っていきたいというふうに考えているところでございます。

○伊藤委員 ありがとうございます。

○本郷谷市長 どうぞ。

○山田委員 山田です。大賛成といいますか、これは市の中の資源をフル活用して、行政として努力すべきは、この冠をしっかりと出して、つけて、これも単発なイベントというよりも、ウイークですね、ここにも書いてありますけれども、ウイークとか月間みたいな感じで、そこの、例えば皮切りが中学校であれば、フィナーレにはプロが来るとか、あるいは、市民フィルも非常にレベル高い演奏されるわけで、ぜひこれを育てて。全市的な協力を得ていくということも、事務局をできるだけ長続きするような、育てていけるような、かつ民間の活力を入れていけるような組織をどう作るかということだと、あるいは、そういうのをあんまりがちがちに行政が主導しないで、どう促していくかということだろうと思うので、松戸が持つ今の資源を目いっぱい活用してこういうことをやっていくというのは、教育だけじゃなくて、本当にすばらしい試みだと思いますので、ぜひお願いしたいなと思います。民間として頑張ります。

○本郷谷市長 どうぞ。

○山形委員 今回の伊藤委員の雨天の続きのような形なんですが、コロナがまたどう変化するか分からないので、もしコロナウイルスになったときの、オンラインだとかそういうような、人が密にならずに安全にできるかとか、ガイドライン的なものの、現状こういうこと、コロナのときの今、考えていらっしゃるのを伺いたいという質問が1つと、これは意見としてですが、松戸の子どもたちの吹奏楽のレベルってとても高い中で、吹奏楽部ってとてもお金がかかるんです。やってみたいと思っても、部活で楽器の維持とか、楽器の、例えばチューナー一つ、個人持ちなんですね、1万5,000円ぐらいするんです。それを買える子じゃないと入れないみたいな部分があったりするんで、今後この音楽のまちとなったときに、結果が出ている学校だけではなく、中学校に対して吹奏楽の補助金とか、例えばその応援の、補助金を行政から出すじゃなくて、募金というか民間クラウドファンディング、行政クラウドファンディング、21世紀の森と広場でもやっていますけれども、松戸の子どもたちの音楽をもっと盛り上げるために、やってみたいと思う子に、ほかの部活動と違ってかなりお金がかかりますし、遠征やホールを借りて楽器を移動させてというときも、またお金もかかります。そこは個人持ちになっていたりとか、例えば、すごく優秀な子は個人のレッスンをしていたりするんです。その中でも、全部それは払える子はそれができるような形になっていますので、例えば行政主体として個人レッスンの引退された、それこそ学校のサポートの助っ人システムではないですけども、プロフェッショナルで引退されて時間がある方が、リーズナブルな価格、もしくはそこは補助をしながら、吹奏楽のレッスンができる、合唱のレッスンができるというような、子どもたちの土台のところを育てたり、市民フィルのような大きなもうチームができるところとは別で、ママのブラスバンドだとかゴスペルのチームやご高齢の方たちの細か

なサークルみたいなのがかなりある。生涯学習のアンケートを見たとき200団体ぐらい、いろいろな種別ですけれども、いろいろある中で、その中でも音楽をされている方がいらっしゃると思うので、そういう方たちにも何かサポート、もしくはこういうものがあつたときに、例えば、森のホール21を一日、もうそのホール全体を貸し切って、学会システムみたいな感じで、この時間帯はこの3階の、セレモニーホールって小さなホールがあるじゃないですか、あそこは三味線の会ですみたいな、いろいろはしごができるような、みんなで参加できるようなシステムなんかも考えながら、盛り上げていただけると、音楽がやりたい方、もしくは、音楽を既にやっていてプロで活躍されている方が、こういうすてきなことだったら協力しますと、潜在的なすばらしい人材の方が手を挙げてくださるかもしれませんので、ぜひ広げて行ってほしいなと思います。

コロナのことにに関して、お願いいたします。

○本郷谷市長 生涯学習部長。

○片田生涯学習部長 コロナの関係ですが、やはり当然、密にならないような対策もありますし、あるいは、山形委員からご提案ありましたように、オンラインでの配信というのも非常に有効な方法だというふうには思っておりますので、そういうことも併用しながら対策を講じつつ、どういうふうになっていくか分かりませんが、いずれにしてもオンラインの配信については、やっぱりやるのはすごく有効だというふうに思いますので、そういったことも併せて検討したいというふうに思います。ありがとうございます。

○山形委員 ありがとうございます。昨年、生涯学習のほうでジャズの勉強会をやったところ、たくさんの方がオンラインで参加されていたというのがあるので、コロナがあつてもなくても、オンラインは確実にやりながら、この間の科学と芸術の丘でもユーチューブで配信を、限定公開としてQRコードや、参加した人にリンクを送る形で、あまりにも多様にされないような、少しセーフティーネットも取りながらでもいいですし、この部分は全公開で、松戸の、それこそホームページもちょっと整備したりとかしながら、ここに来たらいつでもとか、エントリーシートが入りやすいとか、入り口がとにかく分かりづらいとやりたくてもできないということがあつたりしますので、そういう整備のほうも並行しながら、企画のほうをよろしくお願いいたします。以上です。

○本郷谷市長 あと、ありますか。どうぞ。

○武田委員 前回の総合教育会議からつながって、スピード感をもって、こういった形を想定してくださったということに、本当に感謝したい気持ちがまず最初にあります。それで、いろいろな方のご意見を聞いていて、幾つか思うことを言いたいと思います。雨天に関しての難しさというのを、できれば将来的にはきちんとした、覆いがかぶさって、雨もさけられ、音響にも心配がない形のステージを構築していくことが理想です。これは、このイベントが育っていくのと同進行で、そういう必要性を感じる機運まで育てばいいなと思います。ただ、単純に外で楽器を吹くということに対してだけでも、実は楽器を大事

にしている人間は嫌がります、これが大前提なんですね。けれども、きちんとした練習する場所は別の屋内で確保された上で、当日だけという形であれば賛同を得られることも、多くはなるのかなと思いたいです。それでも駄目という方がいても、それはもう意識レベルの問題なので、致し方がないかなと思います。

それと、今、山形委員がおっしゃっていた、吹奏楽部に対する、お金がかかるとか、いろいろな意見なんですけども、本当に行政に助けをいただきたいというのがまず第一です。それと一つの例ですが、習志野市さんは非常にハイレベルで高校の吹奏楽が運営されていて、その高校生が小学校、中学校に循環的に教えに行くという形が構築されていて、いい循環ができています。もう小学生が高校生のことを先輩だと思っています。そのようなモデルがすごく近隣市にあるので、良いモデルとして取り入れたら、限りなく松戸の子どもたちは頑張れるかなと思います。

あと、この受賞発表会ですね、私は毎回楽しみにしております。前々回のときでしたかね、全国大会金賞取るような四中と小金中が同じ課題曲を演奏してくださいました。そうすると、個性と違いというものを素人の耳でもすごくよく分かる、そういう経験というのが非常に大事で、なおかつ、こういうところにプロの方が、同じ日になるかどうか分からないけれども、いらっしゃるのであれば、ぜひより質の高い音を高い目標を持つ子どもたちの耳に届けてあげたい、そういう企画をぜひ設けていただくと、いいものにライブで触れた経験から、プロになりたいという気持ちが生まれやすくなるのだと思います。

また、卒業された方で今、音大に行っているような身近な先輩方をこういう舞台に参加を促すことで、気持ちをより盛り上げてあげたいというか、そういう一助になったらいいかなと思います。卒業生で、そういう方がもしあれば、発表の機会としてぜひ呼び出すというようなこともあっていいのではないかなと思います。ホールを借りている時間の許すというところの難しさはあるんでしょうけれども、そういった道半ばのこれからという子どもたちへの成長に応じた切れ目のない教育の場としても活用していただきたいと思います。

あとは、本当に長い目でゆっくり諦めずに続けていただいて、私もぜひ見届けたいと思っています。こういう自治体は少なからずございますけれども、こんなに東京に近いところでやっていて、まして藝大が本当に近くて、もし力添えをいただけたら、本当のプロのいい音が聞けます。その場をこちらが提供できるか否かだけなんじゃないかなと思います。実現すると、すごくうれしくて、ぜひそこまでこぎ着けていけたらいいなと思っております。以上です。

○伊藤教育長 いろいろありがとうございました。ぜひ成功させたいなと思います。発信をできれば早めに、もう予算が取れ次第。なぜかという、やっぱりこのコロナ禍でもう心も体も病んでいる人たちが多い状況の中ですから、ミュージックセラピーじゃないけれども、やっぱり音楽という明るい話題を市民の皆さんに早く提供したいなという思いがあります。

このアイデアというか、この考え方はもう三、四年前から検討を実はしていたんですけども、なかなか、市民のいろいろな団体の方がたくさんいらっしゃるから、意見がまとまらないというか、主導する市民の方がなかなかできないという悩みがずっとありましたけれども、先ほど山田委員さんからありましたが、最初はやっぱり行政主導でやるしかないのかなと。できればもっともっと広がりができるようにということで、頑張りましょう。

○本郷谷市長 いいですかね。

こういう形でやっていくのは僕もぜひ積極的にやってほしいと思うんだけど、音楽のまち松戸と書いて、これだけ書かれると、音楽のまち松戸ってこれだけなのと。例えば、先ほど言われた吹奏楽で、中学の人たちをもっとどうやって育てるか、あるいはその後、中学を出た後どのようにフォローしていくのか、あるいはプロを目指している人たちをどうやって育てていくのか、支援するのか、あるいは、プロがもっとこういう市民と直接接する、これは自分たちでプロはあまり呼ばないとか言っているけれども、プロはちゃんと呼んで、しっかりと本当の意味のレベルの高いやつは接するというのは、小さいうちからやっておくということが物すごく大切だと思うし、音楽といっても、これだと何か限定的になってしまうという感じで、音楽といったってすごくたくさん広い、広がりがあって、音だけじゃなくて踊りだとかいろいろなことも含めると、物すごく広いし、そういう意味で、音楽のまち松戸、その1という意味では、これは僕も認めるけれども、音楽のまち松戸というだけだったら、これだけなのと。これでは、もう音楽のまちの一部だねと。だから、その1ぐらいにして、一つの分野でこういうことをされていくのは全然問題ないし、けれども、さらにその2、その3、その4とやっていかないと音楽のまちにならないと思うので、それは引き続き検討してほしいし、今出てきた意見もそういう思いがあると。これに対して誰も否定的な人はいないので、ただ、自分たちでね、でも、学校と地域とか、学校の教育の一環だとか地域、こう狭くなると、文化とか音楽というのが自分の生きがいになっていく人もいるわけで、教育とかなんかのためにやっているわけじゃなくて、またそれは経済的になる人もいるし、経済活動に広がる人もいるし、そんなこと関係なくてやる人もいるし、いろいろあるわけだから、もっと何か、自分で狭めずに、もっと広がりを持って、ここに入らないやつはもっといろいろなもの、プロジェクトを展開してくれればなど。

これもまさに教育委員会だけじゃなくて、経済振興部のところに文化もやっているし、あるいはお祭りとかいろいろなもの、全部バックアップしたりしているので、これはお祭りと一緒になってやればいいので、ぜひ縦割りにやらないでほしいんだけど、もっと広がりを持ってお互いに連携を取って広がりを持ってほしい。そういう意味で、これは誰も、今聞いていても、ぜひやってほしいし、だけど、その1ぐらいに考えていただきたい。

そんなところで、よろしいですかね。そういうことでいいですかね。

今日、議題2つでした。いろいろありがとうございました。

最後に、事務局のほうから何かありますか。

◎その他 過去の総合教育会議の議題に係る実績一覧について

○上野総合政策部審議監 それでは5ページ、ご覧いただきたいと思います。資料3、その他といたしまして、過去の総合教育会議の議題に係る実績一覧（報告）についてご報告させていただきます。

こちらにつきましては、平成27年度に現行の教育大綱が策定され、その大綱に基づいて、これまでの総合教育会議において協議された中での事業実績や進捗状況、効果等について実績としてまとめたものでございます。特に、平成29年度におきましては、児童生徒の安全対策について議論を行ったことで、防犯対策の強化等につながったなどの実績等もございますので、ご覧いただければと思います。

また、先ほどの教育大綱の改定につきましては、先ほど市長からもご説明がありましたとおり、今回の議論を踏まえまして事務局で最終調整を図り、事務手続を進めさせていただきたいと思います。また、委員の皆様には後日ご報告させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。事務局からは以上でございます。

○本郷谷市長 どうもありがとうございました。それでは、最後に山田委員のほうから、時期も3月末でしたかね。

○山田委員 せっかくの機会いただきましたので、これが総合教育会議、最後になるかもしれないので、というタイミングだという、多分ご示唆だと思いますので、本当に、私も12年間させていただきました。それで、ちょうど前の市長から、あんたやんなさいよ、PTA終わってうろうろしてるんじゃないよと言われて、本郷谷市長に替わられてから、ちょうど、そんな感じでさせていただいて、関わらせていただきました。その間に教育委員会の制度改革がありまして、こういう場ができたという、本当に変わり目にいさせていただきましたこと、好き勝手なこと申し上げまして、本当にご苦勞をおかけしました。事務局の方々に感謝し、市長に感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

○本郷谷市長 一応、本人の意向としてはこの期までというふうに言われているので、一応。

◎閉 会

○本郷谷市長 では、どうもありがとうございました。